

近年の災害から見る分野・部門間協働 (TRANSDISCIPLINARY APPROACH)の重要性

科学技術の進歩にもかかわらず国内外で災害が増加しており、アジア太平洋地域では、減災・防災は共通した喫緊の課題となっている。アジア土木学協会連合協議会(ACECC)の21番目の技術委員会であるTC21は分野・部門横断的アプローチ(Transdisciplinary Approach)により、災害に強い社会づくりに貢献することを目的として設立された。本研究討論会では、TC21の取組みを紹介するとともに、近年発生した災害(九州北部豪雨や、西日本豪雨、熊本地震、インドネシア・スラウェシ地震など)における事例を基に、TDAの重要性と今後の適用について議論する。

- 日時：令和元年9月3日(火) 12:40-14:40
- 会場：香川大学幸町キャンパス 幸町北3号館 322講義室
- 申込不要※です。直接会場にお越しください。(座席定員：160名)

※別途、土木学会全国大会聴講参加登録が必要です。

座長 石渡 幹夫 ACECC TC21 国内支援委員会 委員長、東京大学新領域創成科学研究科客員教授、国際協力機構(JICA) 国際協力専門員

プログラム

(プログラム、講演タイトルについては変更になる場合がございます)

【はじめに】

- 12:40~12:55 TC21の活動の目的とキーワード、活動内容の紹介
井上 雅志：(株)エイト日本技術開発 災害リスク研究センター 研究員

【各セクターからの話題提供】

- 12:55~13:10 水防災の主流化に向けた取り組み
村瀬 勝彦：国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 国際室長
- 13:10~13:25 開発途上国における復興支援の取組 中部スラウェシ復興支援の現場から(仮)
荒 仁：国際協力機構 社会基盤・平和構築部次長 都市・地域開発グループ長
- 13:25~13:40 九州北部豪雨からの復興 -九州大学復旧復興支援団の活動-
塚原 健一：九州大学 工学研究院 附属アジア防災研究センター 教授
- 13:40~13:55 平成30年7月豪雨災害に際しての倉敷市の対応
森田 博之：倉敷市建設局災害復興推進室 主任
- 13:55~14:10 大学間協働による防災人材養成
松本 秀應：香川大学危機管理先端教育研究センター 副センター長・特命教授
- 14:10~14:25 四国クリエイト協会の産官学連携支援活動
藤山 究：一般社団法人四国クリエイト協会 専務理事

【まとめ】

- 14:25~14:40 全体討議(質疑応答を含む)とまとめ
石渡 幹夫：東京大学新領域創成科学研究科 客員教授、国際協力機構 国際協力専門員

Ace TC21
Transdisciplinary Approach (TDA)
for Building Societal Resilience to Disaster.

問合せ先

井上 雅志 (ACECC TC21国内支援委員会 委員兼幹事) inoue-ma@ej-hds.co.jp
(株)エイト日本技術開発 災害リスク研究センター